

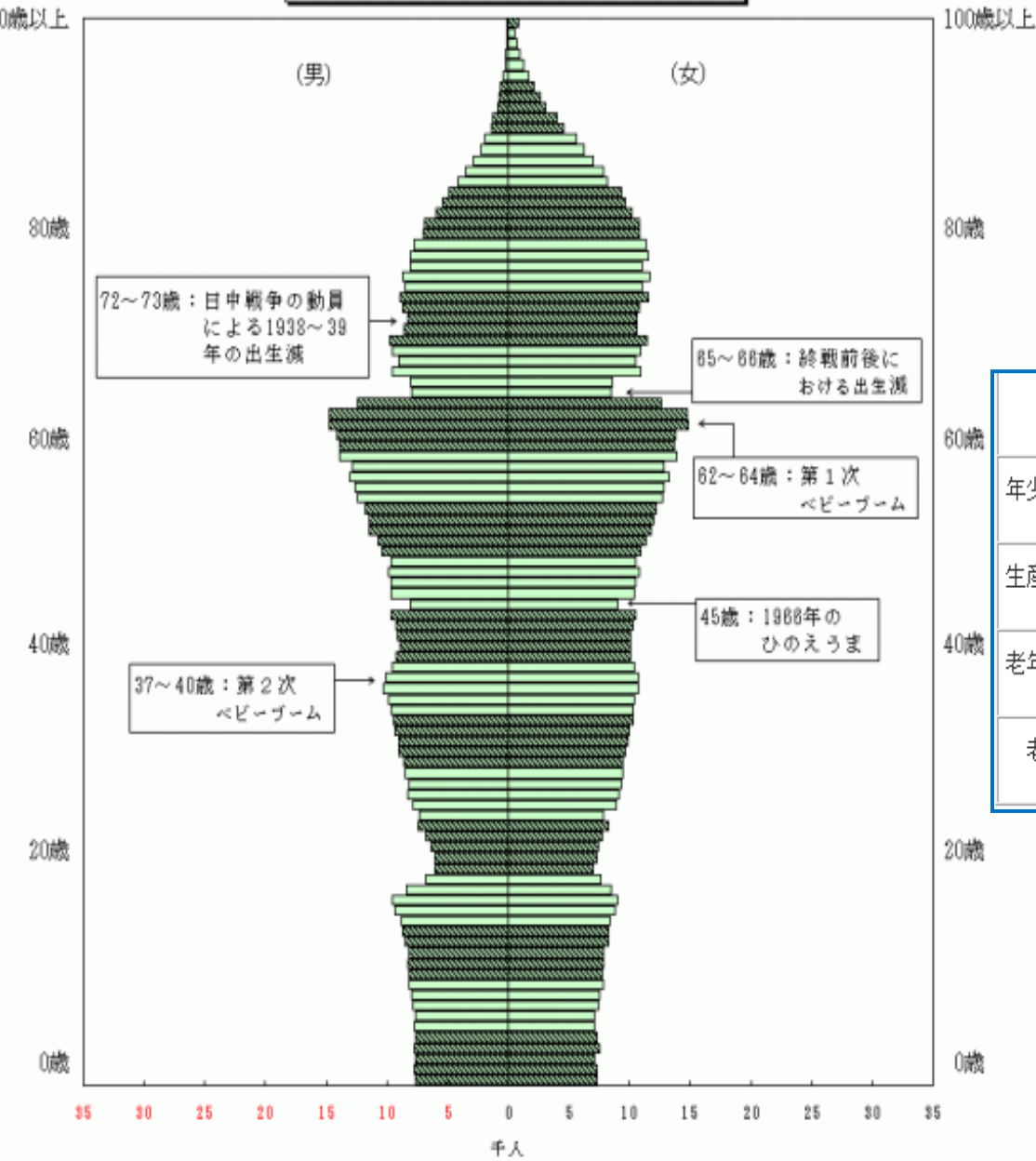
認知症の症状と進行について

医療法人 康成会
植村病院 植村 健



平成24年9月6日、13日 鹿児島市西部保険センターの講演より

鹿児島県人口ピラミッド（平成23年）



鹿児島県の人口

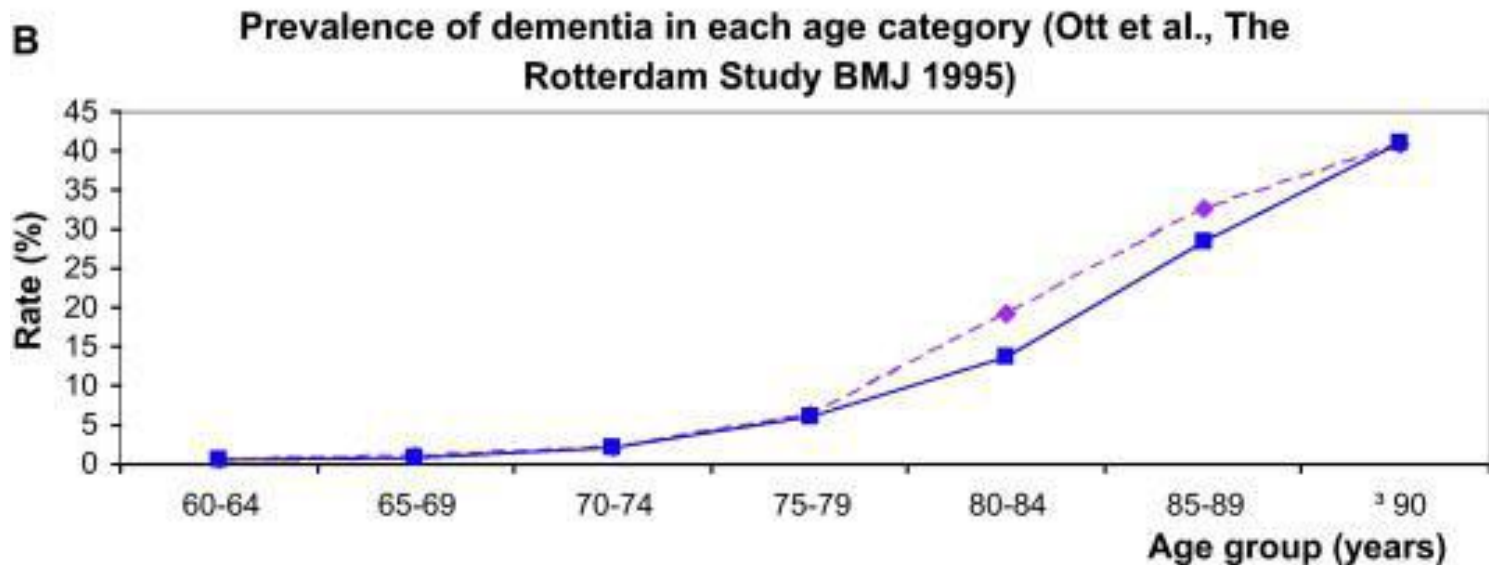
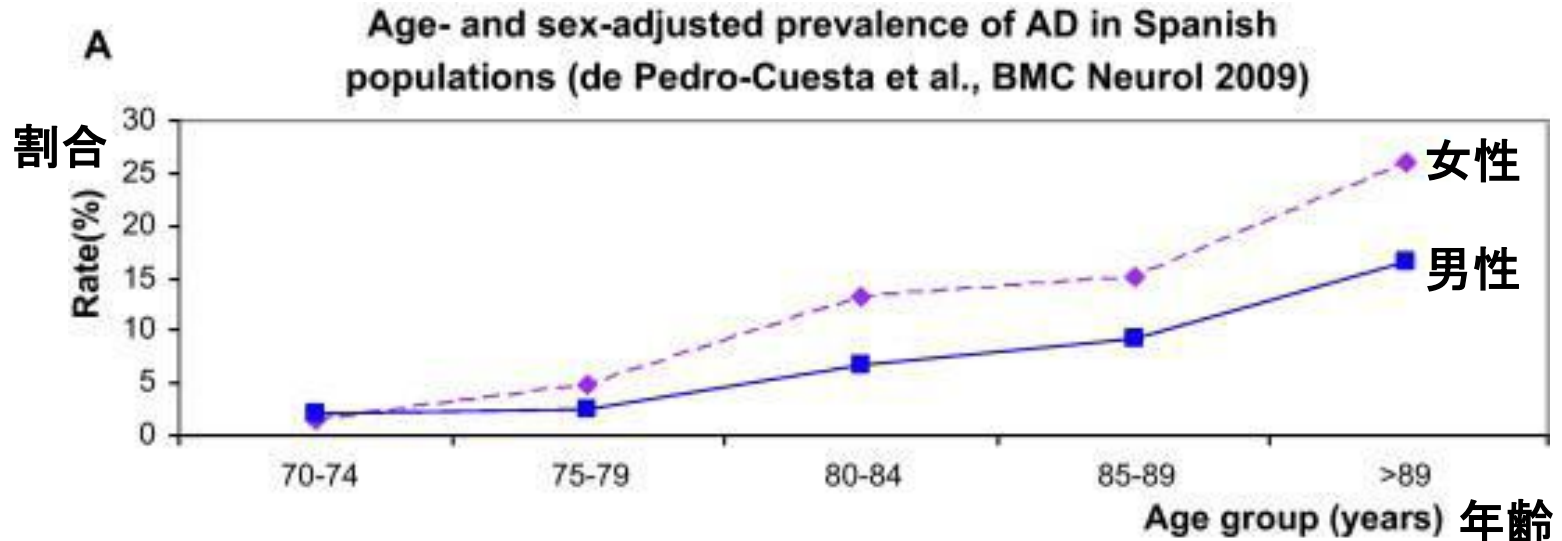
鹿児島県推定人口
約170万人

	人口	割合
年少人口(0~14歳)	233,114人	13.7%
生産年齢人口(15~64歳)	1,016,133人	59.8%
老年人口(65歳以上)	449,412人	26.5%
高齢人口のうち75歳以上	256,611人	15.1%

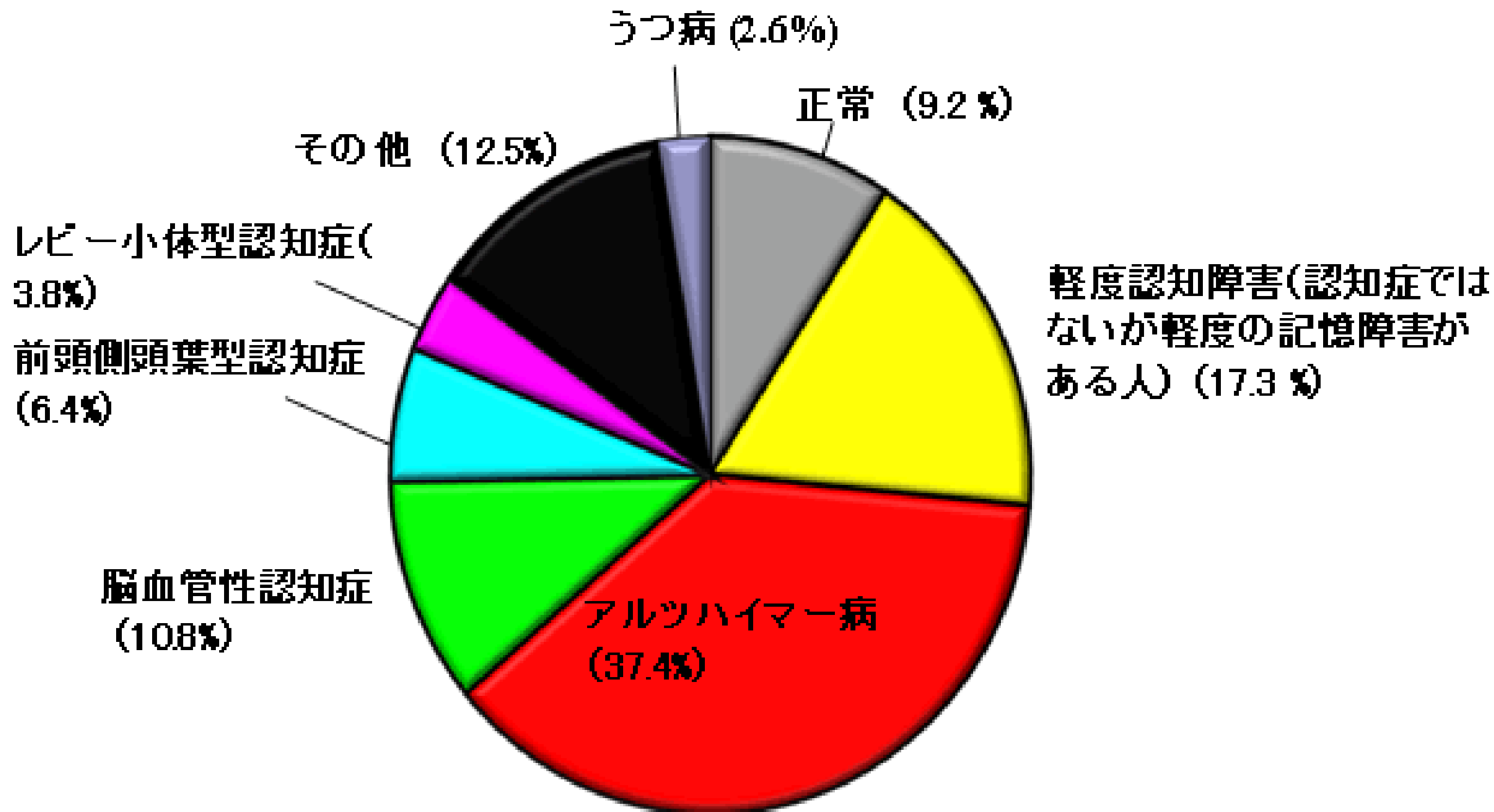
高齢化

鹿児島県ホームページ「平成23年10月鹿児島県年齢別人口調査」より

認知症の年齢別、男女別の頻度（主要な2文献より）



慶應義塾大学病院メモリークリニックを受診した患者様の疾患分類と頻度

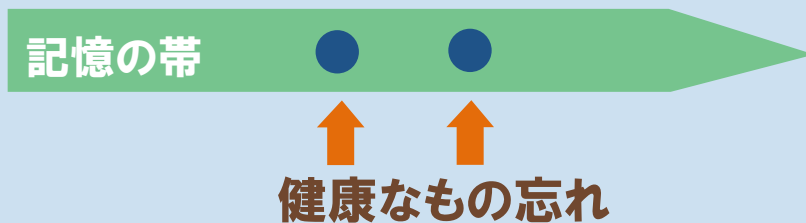


「老化による物忘れ」と「認知症によるもの忘れ」の違い

老化による物忘れ

- 体験の一部を忘れる
- ヒントを与えられると思い出せる
- 時間や場所など見当がつく
- 日常生活に支障はない
- もの忘れに対して自覚がある

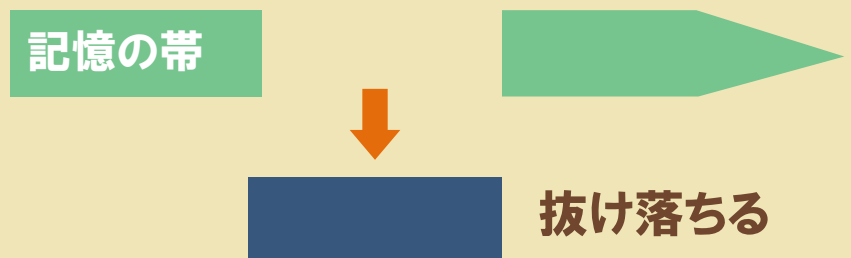
体験の流れ



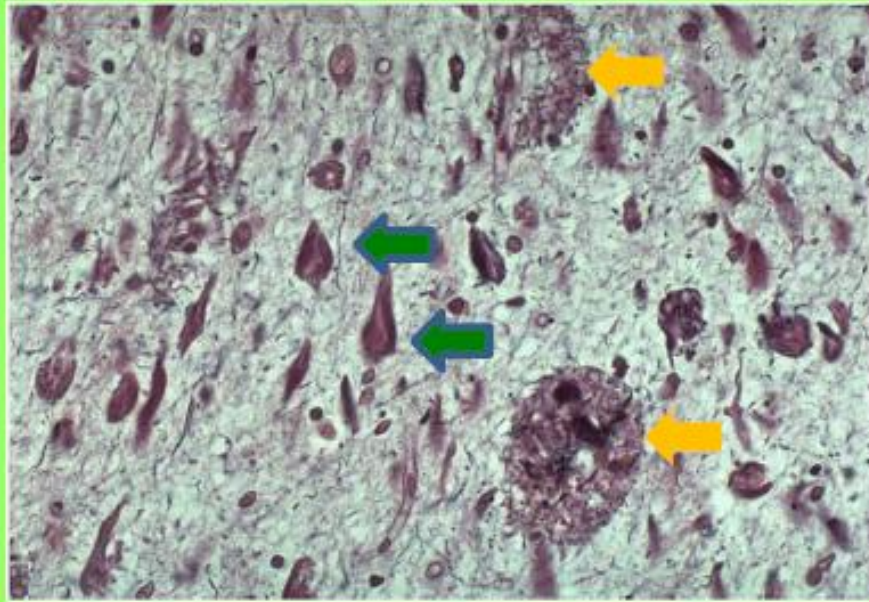
認知症の物忘れ

- 体験全体を忘れる
- 新しい出来事を記憶できない
- ヒントを与られても思い出せない
- 時間や場所などの見当がつかない
- 日常生活に支障がある
- もの忘れに対して自覚がない

体験の流れ



アルツハイマー型認知症は老化による物忘れとは異なる



→ 老人斑
(ベータアミロイドの凝集塊)

→ 神経原線維変化
(タウタンパク質の凝集塊)

〈原図〉金沢大学 神経内科 山田 正仁
メセナミン-Bodian 染色

アルツハイマー型認知症
の脳組織を見てみると

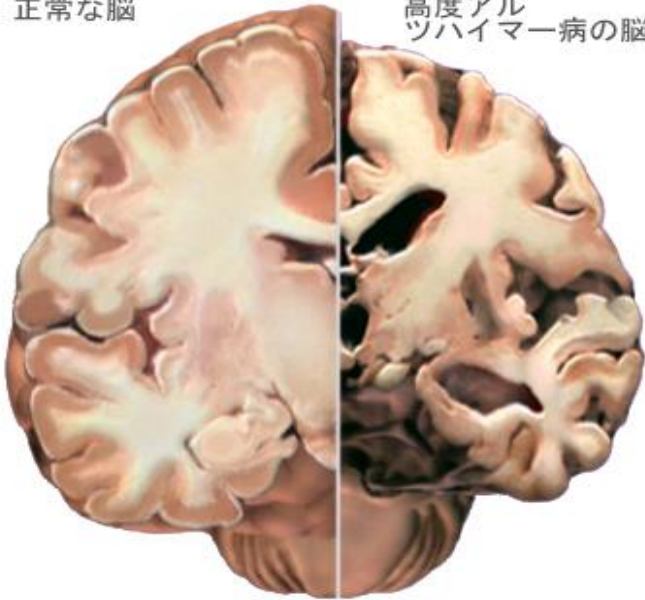
- ・ ベータアミロイドが蓄積して老人斑を形成している。
- ・ 神経のネットワークを構成しているタウタンパク質に異常を生じている。

これらの所見は
正常の老化では見られない

アルツハイマー型認知症の進行と症状

正常な脳

高度アルツハイマー病の脳



病期	障害部位	主な症状
初期	海馬	記憶障害
中期	側頭葉	失語など
末期	前頭葉	人格障害など

前頭葉

Intelligence,
judgement,
and behavior

判断、行動

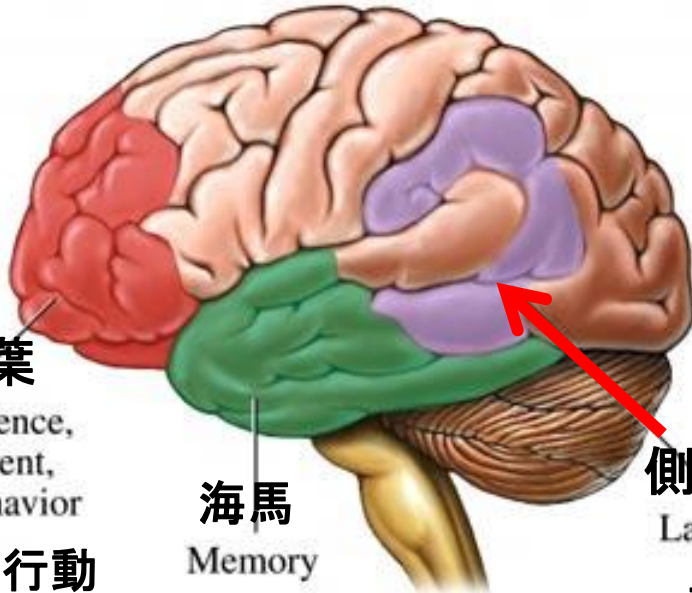
海馬

Memory
記憶

側頭葉

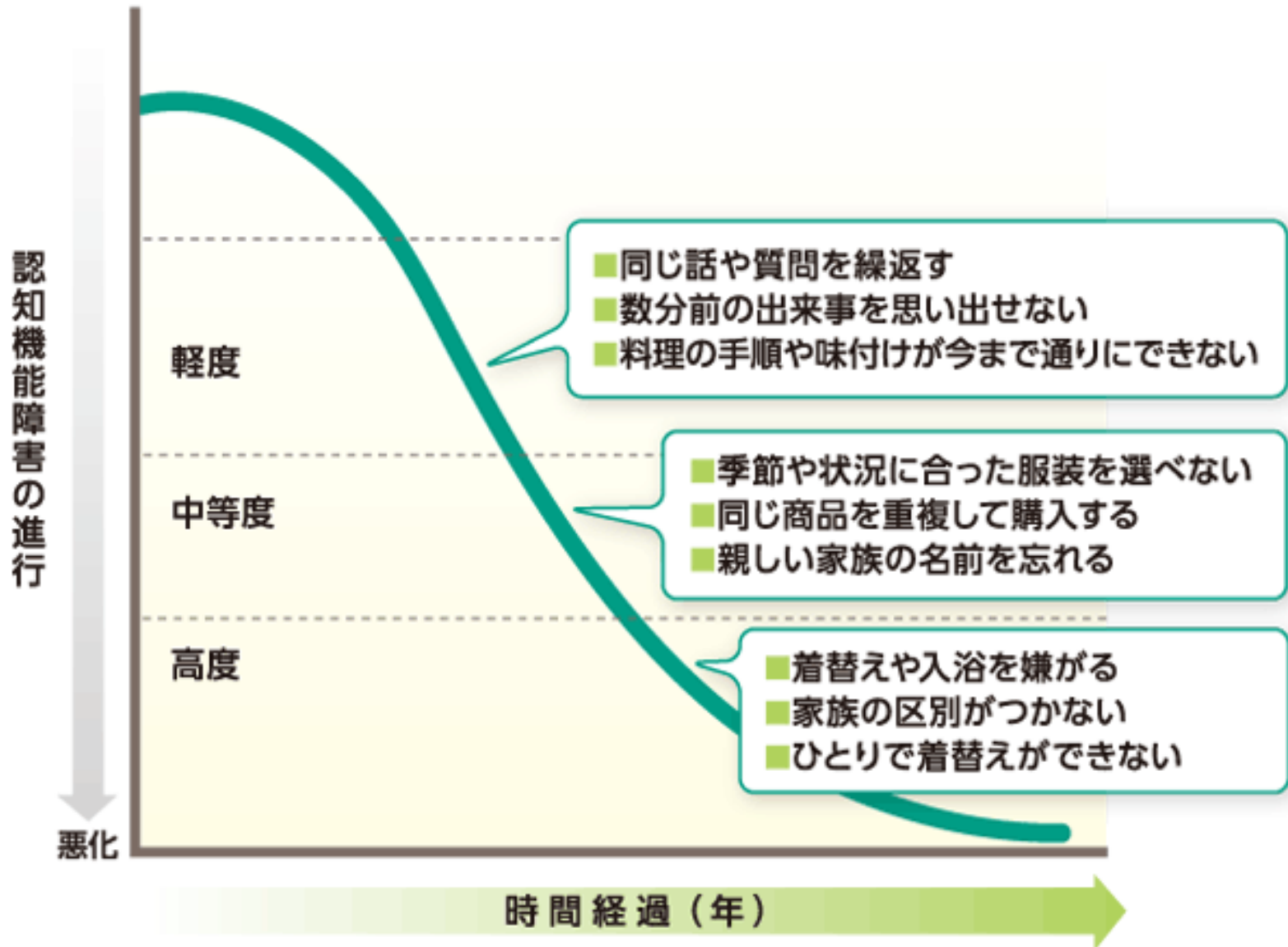
Language

言語



症状の現れ方や進行は人それぞれ

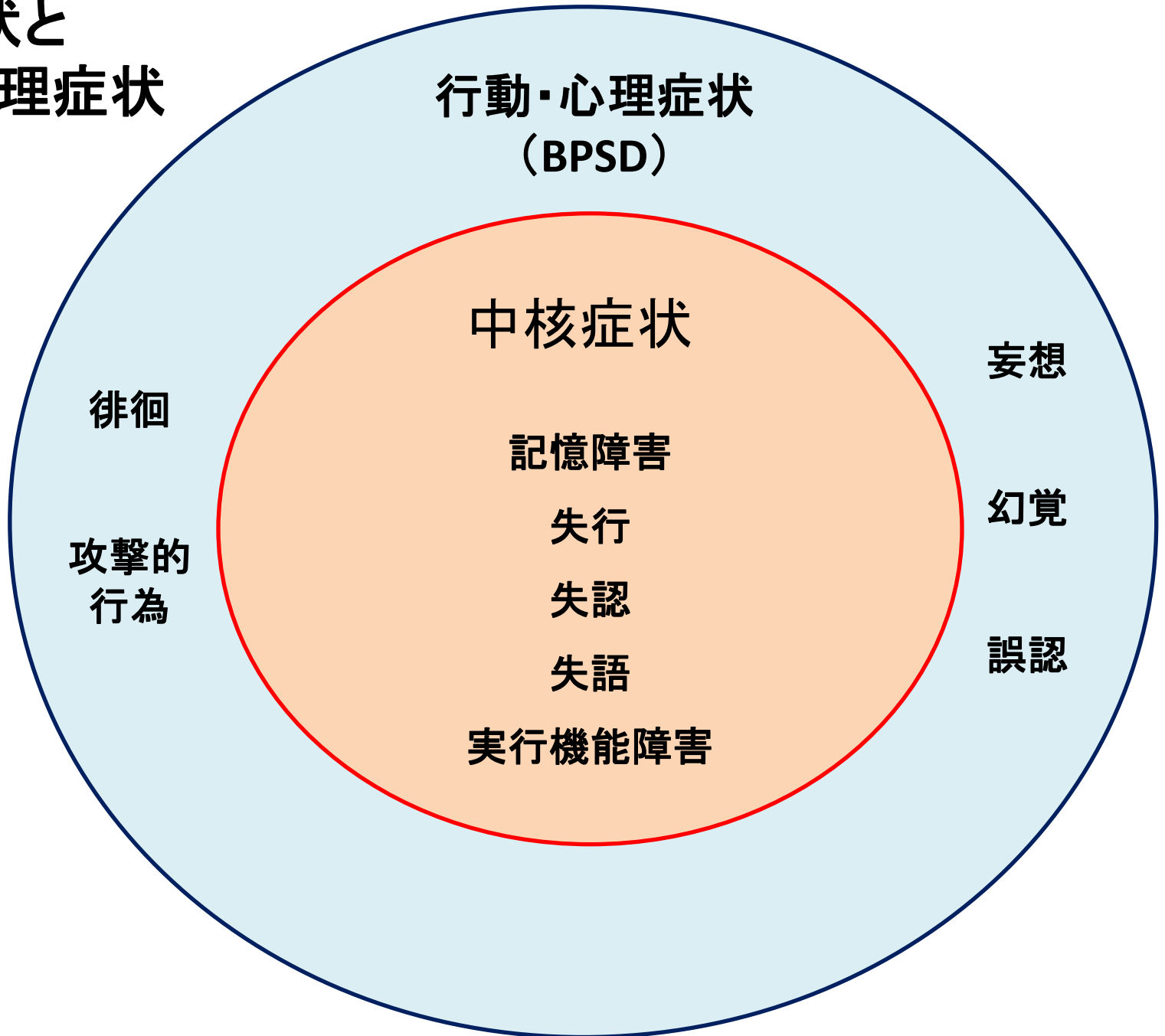
アルツハイマー型認知症の経過



・感染症や骨折などを契機に急速に進行することがある

いっしょがいいね.com より

中核症状と 行動・心理症状



アルツハイマー型認知症の中核症状：記憶障害

即時記憶—60秒まで



近時記憶—数分後まで覚えている



遠隔記憶—昔のこと



記憶の種類を時間でわけた場合、アルツハイマー病では、おもに近時記憶が失われやすくなります。

アルツハイマー型認知症の中核症状：失認、失行

近所で道に迷う(失認)



物の使い方がわからない(失行)



アルツハイマー型認知症の中核症状：失語、実行機能障害

言葉がでない(失語)

.....

あれ、.....
それ
じゃないか。



目的にあった買物が できない(実行機能障害)

肉じゃがを
作るはず
だったのに...



アルツハイマー型認知症の行動・心理症状

行動・心理症状 (BPSD)

- イライラする場面が多くなる
- 些細なことで腹を立てることが多くなる
- 今までの日課をしなくなる
- 誰もいないのに、誰かいると主張する(幻覚)
- 自分のものを誰かに盗まれたと主張する(もの盗られ妄想)
- 無目的に屋外に出て歩き回る(徘徊)



行動・心理症状は
反応性の症状で、不安な気持ちがベースになっている

アルツハイマー型認知症(症状と進行)のまとめ

認知症は老化による物忘れとは異なる。

アルツハイマー型認知症の発現は年齢とともに増加する。

進行はゆっくりであることが多いが、感染症や骨折などを契機に急速に進行することがある。

アルツハイマー型認知症の症状は中核症状と行動・心理症状に分けられる。 行動・心理症状は不安な気持ちが基になっている。